

様式例11 指定管理者制度活用事業 年度評価シート

指定管理者制度活用事業 年度評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市産業振興会館	評価対象年度	令和7年度
事業者名	【事業者名】 公益財団法人川崎市産業振興財団・京急サービス株式会社 共同事業体 【代表者名】 公益財団法人川崎市産業振興財団 理事長 鈴木 毅 【住所】 川崎市幸区堀川町66番地20	評価者	経済労働局経営支援部 経営支援課長
指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日	所管課	経済労働局経営支援部経営支援課

2. 事業実績

利用実績	【施設利用状況】				
		令和7年度提案時 目標値(%)	令和7年度 実績値(%)	令和6年度 実績値(%)	○提案以上 △提案未達
	ホール	73.2	77.7	79.4	○
	展示場	71.0	48.8	59.8	△
	研修室	67.9	61.7	63.6	△
	会議室	56.1	51.5	54.3	△
	合計	63.0	54.3	58.9	△
※実績値は、各施設の利用可能コマに対する利用実績のあったコマ数の割合					
【研修実施回数】					
○デジタルスキルアップ研修開催実績					
		令和7年度 目標値	令和7年度 実績値		
	開催回数	60	57		
収支実績	【指定管理業務】（カッコ内は令和6年度の決算額）				
	・収入				
	指定管理料	168,715千円	(161,712千円)		
	利用料金収入	30,247千円	(39,442千円)		
	事業収入	10,953千円	(10,149千円)		
	その他収入	2,198千円	(2,681千円)		
	計	212,113千円	(213,984千円)		
	・支出				
	人件費関係	111,504千円	(96,167千円)		
	事業関係経費	21,249千円	(23,293千円)		
管理運営経費	74,080千円	(85,321千円)			
本社経費	0千円※本社等からの間接的な経費が発生している場合				
納付金	0千円※納付金を導入している施設の場合				
計	206,833千円				
・収支					
	5,280千円				
【自主事業】					
・収入 0千円					
・支出 0千円					
・収支 0千円					
サービス向上の取組	アンケートやヒアリングの実施、日々の業務見直しのための改善会議を実施のほか、ホール温湿度計交換、4F展示場における音楽利用の暫定運用、第3研修室ハンガーラック交換等を行った。				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	3	6
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	3	6
		当初の事業目的を達成することができたか			

利用者満足度

(評価の理由)

【利用者満足度】

・利用者満足度調査を4回適切に実施し、「施設の印象」、「窓口の対応」とともに満足度(大変良い＋良い以上)は、目標値85%以上を大きく上回って達成している。

○施設の印象※少数第2位四捨五入

	回答数(件)	大変良い(%)	良い(%)	普通(%)	悪い(%)	無回答(%)	良い以上(%)
令和7年度	346	52.0	40.5	6.3	0.0	1.1	92.5

○窓口の対応※少数第2位四捨五入

	回答数(件)	大変良い(%)	良い(%)	普通(%)	悪い(%)	無回答(%)	良い以上(%)
令和7年度	346	62.4	28.9	5.4	0.0	3.1	91.3

・「デジタルスキルアップ研修受講者アンケート」の結果として、「講座内容」「進行スピード」「受講料」等に関する平均満足度は86.3%と高い評価を受けている。また、「ISO9001講座及びISO27001講座受講者アンケート」の結果として、「期待以上満足」「ほぼ満足できた」を合わせると90.0%であり、こちらも高い満足度となっている。

【事業成果】

・中小企業の生産性向上・人材育成を支援するため、IT人材の育成に向けたデジタルスキルアップ研修を実施した。令和7年度は、GX、DX等の社会課題や環境変化に市内企業が柔軟に対応できるよう、セミナー等を開催し先進事例の紹介を行った。

・かわさき生産性向上支援スペース「SAKURA LABO」では、テレワーク環境の場の提供、生産性向上・働き方改革に関する支援を実施した。年間利用者は4,738人(R6年度6,475人)であり、月ごとの平均利用者数は394人(R6年度:540人)であった。利用者の大幅な減少の要因として、産業振興会館の電気設備工事のため、2か月間の市民利用を停止し、その直接的な影響とその後についても利用者数の戻りに時間を要していることが挙げられる。

収支計画・実績

効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	7	3	4.2
	支出に見合う効果は得られているか			
	効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか			
収入の確保	計画通りの収入が得られているか	7	3	4.2
	収入増加のための具体的な取組が為されているか			
適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	3	3.6
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			

(評価の理由)

【効率的・効果的な支出】

・人件費については、人事異動の影響により予算額を3,265千円下回った。

・事業関係経費については、情報発信等業務で予算化していた会館の魅力発信事業を見直したため、予算額を3,882千円下回った。

・管理運営経費については、コスト削減のため消耗品の購入を精査したことにより、消耗品費が予算より減少し、予算額を2,684千円下回った。

・支出全体としては、予算額を9,830千円下回った。

【収入の確保】

・2か月間の会館休止やホールの機能更新工事による3か月間のホール貸出休止の影響や非常用エレベーターの更新時期の利用の落ち込みにより、利用料金収入は、30,247千円となり、予算額を4,999千円下回る結果となった。なお、貸出備品の利用料金を除いた月当たり施設利用料と比較しても、貸出休止期間を除く月当たりの利用料金収入額は3,062千円となり、昨年度の月当たりの利用料金収入(3,177千円)を下回った。

・収入全体としては、予算額を4,548千円下回った。

【適切な金銭管理・会計手続】

・収入、支出ともに適切に管理されており、適正な会計処理がなされている。

サ

適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
	サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	10	3	6
	業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	10	3	6
	意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	3	4.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	7	3	4.2
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	(評価の理由) 【施設・設備の保守管理／管理記録の整備・保管／備品管理】 ・施設の老朽化が進む中、適切に設備・施設を整備・管理した。修繕の必要がある設備等について、所管課に情報共有を行った。 ・業務日誌・点検記録・修繕履歴等は、適切に整備・保管した。 ・設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充については、日々点検し、適切に管理・整備した。 【清掃業務／警備業務／外構・植栽管理】 ・清掃については、施設が快適に利用できるよう適切に実施した。 ・警備については、来館者の安全確保等のために適切に実施し、連絡体制を整備した。また、警備職員に対しては、接遇研修を実施した。 ・植栽管理については、適切に管理を行った。				

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組	例) 第三者へ一部の業務委託を行う際、市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力 市制100周年に向けた取組 障害者の法定雇用率を越える雇用 など			3
	(評価の理由) 清掃委託及び廃棄物処理委託契約において、市内中小企業への発注を行っている。				

5. 総合評価

評価点合計	63	評価ランク	C
-------	----	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・会館利用率については、指定管理者募集提案時の目標及び前年度の利用実績を下回ったが、ホールについては、指定管理者募集提案時を上回った。ホールについては約5か月間、工事の影響等により貸出を停止していたが、利用者の満足度が高水準を維持したことを鑑みると、適切で安定的な会館運営が行えたものと考えられる。しかし、利用率が長期間にわたり目標を達成しておらず、施設の有効活用に課題が見られる。要因分析を行い、利用促進策の強化や施設のあり方の見直しを進める必要がある。
- ・デジタルスキルアップ研修については、最低開催人数を満たさず目標回数を下回ったため、次年度は、受講者のニーズを踏まえた講座を企画し、既存の受講者以外にもアプローチする必要性があると考えられる。
- ・GX、DXといった今日的な社会課題に関する情報の発信や、生成AIの基本から製造業での活用事例や、AI検索に強い企業コンテンツづくりを目指すためのセミナーなど、中小企業を取り巻く社会環境の変化に対応した事業を実施できたといえる。
- ・全体としては、適正な事業執行及び施設管理運営が行われていたと評価できる。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・会館利用者からの意見や要望に対して積極的に傾聴し、適切に対応すること。また、利用者満足度が高い水準で推移している中、全体として目標に達しない会館利用率についての分析をし、会館利用率向上を図る取組を行い、本来の産業振興のための事業収入増に取り組むとともに、引き続き、中小企業を取り巻く社会環境の変化を的確に捉え、研修やイベントの内容に反映させていくことで、市内企業や研修・セミナーの参加者のニーズに沿った事業を行うこと。
- ・安全・安心な施設の維持、管理を引き続き行い、設備・備品の老朽箇所の把握をするとともに、当該箇所の状況について、利用者がどのような影響を受けるかといった視点での分析を加えて、修繕・更新の方針を検討した上で、市所管課へ情報共有を行うこと。